

平成28年度 新潟県立図書館児童部門研究会

『子ども読書推進と家読』

新潟県立図書館 保坂泰子

平成28年6月9日に柏崎市立図書館で開催された「児童部門研究会」に参加しました。今回は「子どもの読書推進と家読」をテーマに、家読推進プロジェクト代表の佐川二亮氏の講演と、潮来市立図書館館長の船見康之氏による「子ども司書講座」実施の事例発表という内容で行われました。

佐川氏による講演は「図書館から地域を変える」朝読から「家読」そして「子ども司書」育成」というテーマでした。佐川氏は「朝の読書」運動の推進に「尽力された方でもあります。朝の読書」が提唱されて30年余り、現在では全国の学校図書館で取り組まれ、その効果も実証されてきました。この「朝の読書」運動を始めた当初から、佐川氏は、全国的にこの運動が広まった次の段階には、今度は家庭での読書「家読」が子ども達には必要であると考えておられたそうです。

佐川氏によると、子ども達は「朝の読書」により、学校での読書習慣は身につけてきたが、反面、家庭では子どもだけでなく、親自身がテレビやスマートフォンに夢中になるなど、本を読むことがなくなってきた。本を読むどころか、会話がなく、家族のコミュニケーションのあり方が変化してしまっただけでなく、家族が会話するためのきっかけを増やすにはどうしたらいいか、ずっと考えたど

いたのが家庭での読書である「家読」であった。「家読」で特に絵本を推奨するのは、内容が短く、文章だけでなく絵を楽しむことで親子の会話が弾むということ。また、絵本には人間が生きていく上で必要とされるテーマが全て含まれており、話題に事欠かず、大人も親しむことができるという理由からであり、「家読」を「うちどく」とあえて読む理由も、「やわらかさ」と「あたたかさ」を感じることができるとして親しみをもって欲しかった、との思いからだそうです。



佐川氏による講演の様子

「家読」をどのように実施するか、そのアイデアを考え、「家族で同じ本を読もう」「読んで本で話そう」「感想ノートをつくらう」「自分のペースで読もう」「家庭文庫をつくらう」の5つの約束事を全国へと発信したのは子ども

達自身であり、子どもが主役であるという点が、大人の考え方で創り出された「朝の読書」と異なる点と強調されていました。そして「家読」を支え、子どもたちが子どもたちのための読書サポーターとなるべく生まれたのが「子ども司書制度」であるのだと、佐川氏からは「家読」からの更なる次への段階について、紹介いただきました。

船見氏からは、「子ども司書講座」企画から実施までの考え方と取組み」と題し、潮来市立図書館での取り組み事例の発表をしていただきました。船見氏は、実際に「子ども司書制度」を企画・実施するにあたり、人数が20名程度、対象が小学校4～6年生、中学校1～2年生と、少人数で限定された年齢層となることに、教育委員会からは当初、抵抗を示されたといわれています。しかし、声が届く範囲に大切に伝えたい、そして「子ども司書講座」が全てではなく、既に実施している「読書ノート配布事業」や、「学校図書館支援事業」を継続していくことで、図書館として幅広い読書推進を図っているという点に理解を示してもらったのだと述べられました。

また、実施するにあたっては、図書館単独では限界があること、関係各所との積極的な連携、学校との相互理解、また講座をビデオ撮影することで、個人・スタッフへの積極的なフィードバックと意識共有、連帯感を得ることができると強調されていました。意見交換では、新潟市立図書館で今夏「子ども司書講座」を開催予定との報告があったほか、佐川氏からは、新潟県における「家読

ネットワーク」立ち上げを柏崎市立図書館を事務局として、進めた旨の提言がありました。



意見交換の様子

今回の研究会に参加して、読書推進の取り組みは、過去から現在、そして未来へと繋がるものがあり、常に未来を見据えている必要があるということ、また、子ども読書に関しても「子ども」自身が主役であり、彼らが主体的に取り組み環境づくりもまた、図書館の為すべき役割である、ということも、再認識しました。

「児童部門研究会」に参加して
燕市立吉田図書館 揖斐 恵美

平成28年6月9日、初めて児童部門の研究会に参加させていただきました。講師は家読推進プロジェクト代表の佐川二亮さん。「朝読」の始まりから「家読」に至るきっかけ、その効果を大変詳しくお話しいただき、読書の必要性を深く感じる事ができました。

地震による図書の落下と
書架の転倒を防ぐ
三方向減震装置「グラッパ書架」

詳細や書架振動実験は、キハラHPで、ご覧ください。
<http://www.kihara-lib.co.jp/>

キハラ株式会社
本社 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-5 TEL: 03-3292-3301

新鮮な OFFICE を創ります

OA機器からオフィス造りまで
オフィス 株式会社

〒950-0963 新潟市東区卸新町2-848-22
TEL 025-279-2211代 FAX 025-279-2215

子ども達はスマホやゲーム、ネットなどに興味関心があり、家ではなかなか読書をしません。しかし、このような環境の中で育った子ども達の脳への影響は少なくないと感じてきた。いじめの増加やコミュニケーション能力の低下、少年犯罪といった恐ろしいものに繋がってしまう現実があるのだと知りました。しかし、家族でコミュニケーションをとりながら楽しく読書をする事によって得られる効果は「家読」運動が広まるにつれて大きくなっていくのだらうと期待が膨らみます。

事例発表では、潮来市立図書館館長の船見康之さんより「子ども司書講座」について、実際の企画から実施までの、より詳しいお話をお聞きすることができました。



船見氏による事例発表の様子

船見さんは今ある児童サービスに違和感を覚え、その解決策として「子ども司書講座」の企画立案をされたとお伺いしました。子ども司書講座では、窓口業務から本の装備・修理、ポップ作成やディスプレイと様々な司書体験をするそうです。おはなし会を想定した

場合は、企画書から子ども達に提出してもらうことで、本当に私たち図書館司書と変わらない内容となっていました。

私は図書館業務を行う際、利用者の方のニーズに合わせたものを季節ごとに行えるよう心掛けてきました。しかし、船見さんのお話をお聞きし、この方法だけで今後子ども達が積極的に図書館に興味を持ってくれるだろうかと不安に感じてしまいました。イベントにおいても、参加することで新たな本との出会いがあったり、新しい情報を得たり、市民交流をしたりすることはできません。これは図書館の側面に過ぎません。子ども司書講座のように、全体的に図書館と関わりを持つことで、子ども達の図書館への理解は深まり、イベントひとつにしても興味関心はより大きくなるように感じます。

子ども司書講座を実施したことにより、子ども司書につられて他の子ども本を読むようになったり、子どもからのリクエストも増えたりしたそうです。そして、子どもから自主的に話すことが増え、親も学校も驚いているとのことでした。

今回、講演と事例発表をお聞きしましたが、双方ともに図書館だけではなく、家庭・学校・教育委員会が一体となり取り組んでいく課題なのだと感じました。図書館では子ども達と接する機会も多いので、この分野の知識を得られたことは自分の強みにもなり、また今後の図書館業務にも必ず活かしていきたいと思えます。

ARで広告を効果的にPR!

紙面の上に動画を再生!

ARは「印刷物」にスマホアプリのカメラをかざすだけで紹介動画などのコンテンツを再生できる新しい形の広告ツールです。お気軽にお問い合わせ下さい。

↓ COCOAR2をダウンロード頂き、下記弊社社名をスキャン頂くとサンプルをご覧いただけます。

AP 阿部印刷株式会社 E-mail office@ap-create.com
URL http://www.ap-create.com/

〒959-1704 新潟県五泉市村松甲2096番地 TEL(0250)58-5115

さらに便利で快適なプリントワークへ。

RISOGRAPH ORPHIS KONICA MINOLTA

小林事務機株式会社

☎950-0916 新潟市中央区米山4丁目16番2号
TEL (025)241-2211(代) FAX (025)244-0075
URL http://www.j-koba.com/
E-mail:koba@j-koba.com